



学校歯科検診のお話



学校歯科検診で「虫歯」にチェックが入っていなかったからといって油断してはいけません

学校歯科検診は私たち歯科医師が各校を回り検診します。専門家である歯科医師が診るのだから歯科医院での診察と同じだと思っているかも知れませんが、じつは全く違うんです。

1. 時間が短い

学校検診では1人1~2分程度でみていきます。歯科医院の検診では1人20~30分程度の時間をかけます。

2. 見えにくい環境

学校検診は多くの場合、子供と歯科医師が向かい合わせに座り、お口の中をのぞき込む形で検診します。中は暗く、特に上の奥歯は非常に見づらい状況です。私は個人的に医院で使用しているヘッドライトを持参していますが、やはり歯科医院で診るのとは全然違います。



3. レントゲンがない

歯の病気の大半は歯や骨といった硬い部分に起こるので、目で見るだけでは診断がつかないことが多く、きちんとした診断にレントゲンは必須です。

4. むし歯診断器がない

当院ではレントゲンで見つけられない虫歯を発見するための虫歯診断器を使用しています。レントゲンと並び重要な位置づけで、もはやこれ無しで診療することは不可能と感じています。学校では目で見るだけなので精度がかなり落ちます。

5. 汚れが残っている

歯科医院での虫歯チェックは、あらかじめ歯科衛生士が歯の表面のネバネバ汚れをきれいに取り除いてから行います。学校歯科検診でも、特に給食の後などは汚れがついていて「あまりよく見えない」というのが本音です。

以上のように学校では条件の整わない中で検診を行います。見落としが無いように努力していますが、精度の高い検査を行うことは実質困難な状況です。「そんなことはけしからん!」と思う人がいるかも知れませんが、それはちょっと違うのです。なぜかという、学校歯科検診というものはあくまでもスクリーニング検査*1だからです。（*1:「ふるいにかける」という意味で、ある病気にかかっている可能性の高い人を見つける検査）「それっぽい人」「確率が高そうな人」を見つけて、精密検査につなげるのが目的なのです。そもそも病気を100%検出できる検査などというものは存在しません。逆に言えばある一定の確率で見落としが生じる仕組みになっているのです。検診ってそういうものなのです。というわけで、残念ながら学校で検診を受けて「むし歯にチェックが入ってなかったから大丈夫」とはいえないのです。

学校歯科健診＝ざっくりとふるいにかける検査
歯科医院での検診＝精密検査（それでも100%ではありません）



という位

● ● ● 歯医者さんでOKだったのに…

逆に「この間、歯科医院で診てもらってOKだったのに、学校歯科検診でチェックが入ってきた。これってどういうこと?」という事もあります。これにも理由があります。学校歯科検診では見づらい条件の下で異変を見つけようとするわけですが、時として「これってどうかなあ、OK?NG?どっちだろう?」と悩むことがあります。そんな時はNGにすることが多いです。だって、もしOKにしてしまうとその子は歯科医院でしっかり調べてもらうチャンスを逃してしまうことになるからです。そもそも検診は疑わしい人に精密検査を受けてもらうという目的でやっているのです。疑わしきはNGなのです。普段から、定期的に歯科医院でチェックを受けているのであれば、そちらの検査の方が信頼性が高いので心配ありません。

歯科検診の紙に書いてあることの意味を解説します！



虫歯 ●CO（シーオー）：虫歯になりかけています ●C（シー）：虫歯です
●O（マル）：虫歯治療が完了した歯

喪失歯 △：永久歯ですでに失ってしまった歯

要注意乳歯 ×：要注意乳歯

記録用紙に「×」印をつけるので、よっぽど悪いみたい、実は乳歯が抜けかけで割れたり揺れたりしているという意味です。通常はその乳歯を抜歯します。放っておくと永久歯に悪影響が出ることもあります。

歯垢（プラーク）

「歯垢」「プラーク」「歯みがきが不十分」といったことが書かれています。これにチェックが入っている場合は、歯の表面にネバネバ汚れが多く付いているということです。歯科医院で歯磨きの練習をしましょう。

歯肉炎 文言としては「歯肉炎」「歯茎に炎症があります」「歯茎が腫れています」といったことが書かれています。

●GO（ジューオー）：歯肉炎になりかけています ●G（ジー）：歯肉炎です

歯周病は中高年の病気のように思っているかもしれませんが、子供でも歯茎の表面に炎症が起こることがあります。放っておくと将来歯茎の骨を溶かす歯周病に発展していきます。歯垢が原因で起こりますので歯科医院で歯磨きの練習をしましょう。また、歯石がついているのも良くないので、歯科医院できれいに取り除きましょう。

歯並び 歯並びにチェックが入っている場合は、一度専門家に相談しましょう。かかりつけの歯科医師に相談するか、矯正を行っている歯科医院に相談してください。歯科検診で用いる歯並びに関する言葉は以下の通りです。

- ・叢生：乱ぐい歯。歯が出たり入ったりしてまっすぐ並んでいない状態。
- ・過蓋咬合：上の前歯が舌の前歯にかぶさり、下の前歯がほとんど見えなくなってしまう状態。
- ・上顎前突：上の前歯が下の前歯より大幅に外に飛び出している状態。いわゆる出っ歯。
- ・下顎前突：上の前歯が下の前歯より内側に入っている状態。いわゆる受け口。
- ・開咬：奥歯をかみしめた時に、上の前歯と下の前歯が浮いてしまう状態。

顎関節 口を開け閉めしたり、ものを噛んだりするときに、顎の関節に異常がある状態。歯科医院での診察が必要です。

その他 過剰歯：普通より余分に歯がある。

先天性欠損：普通より歯が少ない。

癒合歯：2本の歯がくっついて1本になっている。

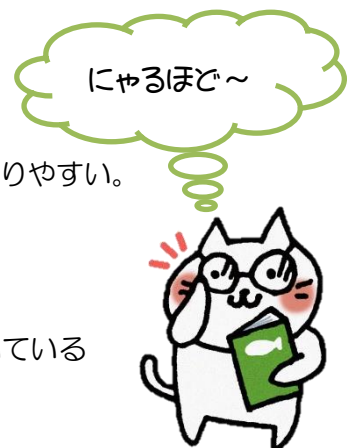
エナメル質形成不全：歯の表面のエナメル質が少ないため、歯がもろくて虫歯になりやすい。

粘膜の異常：粘膜にできものができていたりする。

小帯の異常：小帯の形がちょっとおかしい。



*小帯というのはこの唇と歯茎にくっついている帯のようなものです



安心・安全・確実な治療を目指す

末廣歯科医院 ・ 三津屋診療所

〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1-33-13

TEL：06-6305-6644

